

## 知識

- 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

## プラグインハイブリッド車 運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

## EV モード・AUTO EV / HV モードと HV モードの効果的な 使い方

主に EV モード・AUTO EV / HV モードは市街地走行時に使用し、HV モードは高速走行時に使用することで、電気や燃料の節約につながります。(→P.66)

## エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、電気や燃料の節約につながります。(→P.477)

## ハイブリッドシステムインジ ケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの表示をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。(→P.194)

## シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましよ

う。また、駐車するときは、シフトポジションをPにしましょう。シフトポジションをNにしても、燃費向上の効果はありません。Nでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

#### アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

#### 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

#### 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは電気・燃料の消費量が多くなります。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダル

をゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分な電気消費や燃料消費を抑えることができます。

#### 高速道路での運転

- 速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。
- EVモード・AUTO EV / HVモードで高速走行をすると、著しく電力を消費します。高速道路を下りてから、次に外部電源から充電する場所までの距離が長い場合、高速道路はHVモードで走行し、高速道路を下りたあとEVモード・AUTO EV / HVモードに切りかえることをおすすめします。(→P.64)

#### エアコンのON / OFF

必要時以外はエアコンスイッチをOFFにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り、電費・燃費向上につながります。

冬季：過剰または不要な暖房は避けてください。また、ステアリングヒーター(→P.500)・シートヒーター(→P.501)の活用も効果的です。

### タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、EV 走行できる距離が短くなったり、HV モード時の燃費悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では電気・燃料の消費量が大きくなります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

### 荷物

重い荷物が積まれていると、それだけ余分なエネルギーが必要となります。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。

また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様にエネルギー消費の原因になります。

### 走行前の暖機運転

この車はガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

### EV 走行可能距離について

マルチインフォメーションディスプレイに表示される EV 走行可能距離は、現在どのくらい EV 走行（電気モーターのみでの走行）が可能かの目安を示しており、表示の距離を実際に走行できない場合があります。

EV 走行可能距離が表示されているときでも、一部の状況では EV 走行が解除され、エンジンを併用した走行となります。（→P.68）

### 表示値について

メーターに表示する値（→P.191）は、主に次のような情報から推定しています。

- 現在の駆動用電池残量
- 電力消費率（単位電力量で EV 走行できる距離）の学習値
- 過去のエアコンシステムの電力消費量

電力消費率は走行のしかたによって変化します。電力消費率の学習は車両の充電を行うたびに車両が自動的に行っており、EV 走行可能距離の推定に反映されます。このため、前回までの走行のしかたにより、満充電状態で表示される EV 走行可能距離が前回と異なる場合があります。

学習値が安定するまでのあいだ（新車時から約 1 ～ 2ヶ月ほど）は充電するごとに EV 走行可能距離が大きく変化する場合があります。